

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒 607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

京都橘女子大学図書館 田北十生気付

(Tel) 075-574-4118

(Fax) 075-574-4124



久々会員が増えました！

今年に入り京大と立命館大で久々に新しい入会者がありました。嬉しいことです！
これからも仲間が増えるように頑張りましょう！

下記には立命館大の井上さんの yurikamome へのメールです。yurikamome 会員の方は、既にお読みのことと思いますが再録します。また、yurikamome へまだ入会していない大図研京都支部の会員さんは、是非入会をお願いします。また、京都支部以外でも大図研会員であれば入会が出来ます。

「ゆりかもめのみなさん、お元気でしょうか。

さて、立命班にひさしぶりに新しい仲間を迎えることができました。

立命館アジア太平洋大学で新しい図書館づくりに携わり、またこの間の例会にも積極的に参加されておられる高橋愛さんです。

もう顔見知りの方もおられるとは思いますが、とても学習意欲の旺盛な方で我々もとても元気づけられます。彼女は 2000 年には別府大分に移られる予定ですが、それまで京都支部のさまざまな取り組みにも参加していただけそうです。

そのうち彼女のプロフィールなど、支部報にも紹介されると思いますが、まずはうれしいお知らせまで。」

*高橋さんには5月号の「数珠つなぎ」に投稿していただくことになりました。

ご期待下さい。(編集子)

yurikamome入会申込ページ→<http://kuee2.kuee.kyoto-u.ac.jp/library/yurikams.html>

現在約30名の会員です。

【お詫びと訂正・追加事項】

京都支部報 No168 号、3月号の「数珠つなぎ」の酒井忠志さんの所属が「京都大学・図書館OB」となっていますが「支部役員OB」に訂正し、お詫びします。

また数珠つなぎの本文末尾に「(1999.3.10)」を追記していただきますようお願いいたします。

目次	久々会員が増えました！……………1頁
	ユーザーから見た大学図書館サービス2頁
	3月例会感想文……………3頁
	第8回支部委員会の報告……………4頁
	連載小説(16回)リュウ……………6頁
	数珠つなぎ(37回)……………8頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで
編集気付(kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで

ユーザーから見た大学図書館サービス

(大図研京都支部 3月例会講演のレジメですー編集子)

1999年3月6日

立命館アジア太平洋研究センター

堀田牧太郎

hottamak@askic.kic.ritumei.ac.jp



(1) 図書館員の専門性

あ) 組織上の専門性

組織上のどのような部局においてもジェネラリストとして活躍できる資質
組織を円滑に発展、展開させることのできる向上心

い) 個人的専門性

図書館学のプロとしての自覚と専門
職務関連の専門性 (プロの同時通訳者と同じ)
アマとプロの中間に位置する「逐次プロ」(勉強がたいへん)
職務上の要求と、個人的願望の調整が課題
個人的関心としての専門性

う) 学術上の専門性

図書館員として必要とされる専門性 (多様)
研究者としての専門性
行政者としての専門性

え) 専門性の具体例

語学上の理解、読解能力 (2つの専門外国語と、臨機応変語学力3)
例: EUの東欧支援に関するデータベースの提供; メキシコの法律
国際領域 (日本語プラス) における助言力
日本・フィリピンの農業情報; OECDの科学技術資料入手
個別専門領域における助言力
介護保健法に関する各国情報; アジア太平洋地域の企業経営
学際領域、多領域、難関領域における助言力
GEF: ASEAN大学連合: 遺伝子操作と倫理問題
電子情報、電子データベース活用力
インターネット習熟 (国内外); 有料データベース
専門的データベース構築と公開
京都伝統産業経営資料データ; コア・データベースの習熟
ペリフェリ・データベースの構築

(2) 個別の大学図書館の比較から

- か) ハーバード大学ワイドナー大学図書館
- き) ハーバード大学法学部図書館
- く) スタンフォード大学学生コンピュータセンター
- け) イリノイ・カレッジ・コンピュータセンター
- こ) ハワイ大学大学図書館; 東西センター図書館
- さ) ハワイ大学法学部図書館
- し) ワシントン州立大学 (シアトル) 大学図書館
- す) UBC人類学博物館; アジアセンター図書室
- せ) ピクトリア大学 (ニュージーランド) 大学図書館; 法学部図書館
- そ) ロンドン大学高等法律研究所附属図書館
- た) アメリカン大学大学図書館; 法学部図書館
- ち) 早稲田大学比較法研究所図書館
- つ) 共立女子大学八王子校舎図書館
- て) 駒沢大学図書館

- と) 同志社大学法学部図書館
- な) EU代表部図書館 (東京)
- に) 国連図書館 (ニューヨーク); 国連資料センター (立命館大学)
- ぬ) プサン国立大学図書館
- ね) アジア太平洋大学図書館

(3) ユーザーからの希望

- は) 24時間、365日利用できる図書館
- ひ) 知的生活空間としての図書館 (政府「生活空間倍増戦略プラン」)
- ふ) いこいの場としての図書館
- へ) アーカイブとしての図書館 (図書館連携が必要)
- ほ) 情報創造、情報発信の場としての図書館 (組織、個人の両面において)
- ま) 高齢化社会に適應した図書館 (話し合いのできる場)
- み) 障害者に優しい図書館 (図書館ADA法の必要)
- む) 競争、市場化の中で生き残る図書館
(競争力がある; マーケットの期待に呼応できる; 企画力がある; 外向きの図書館; COEを支援、担うことのできる図書館.....)

【講師略歴】

ほった・まきたろう



- * 1947年長野県生まれ、早稲田大学法学部、大学院法学研究科博士後期課程修了、ハーバード大学大学院法学修士課程修了。
- * 共立女子大学文学部、立命館大学法学部、国際関係学部で教える。
- * ハワイ大学法学部、アメリカン大学国際関係学部、ピクトリア大学法学部等の客員教授歴任。
- * 立命館アジア太平洋大学 (2000年4月) 移籍予定; 立命館大学アジア太平洋研究センター事務局長、立命館アジア太平洋研究編集長。
- * 農水省 (農業、牧畜法)、経済企画庁 (プライバシー法)、国土庁 (都市農村開発)、環境庁 (貿易と環境)、京都府 (環日本海アカデミックフォーラム世話人、4府総検討委員会) 等の委員歴任。

【参加者の感想—大館和郎さん (京都学園大学図書館)】

研究者としての利用者の立場から、図書館に対していろいろと要望が出されましたが、印象に残った項目をあげますと

- 1) 特殊コレクションより、基礎資料に収集の重点をおく。
- 2) 図書より、雑誌に収集の重点をおく。
- 3) 新聞やデータは投資のわりには効果がない。
- 4) プロジェクト方式で特別予算を組むべき。
- 5) 雑誌は製本すると使いにくい (コピーしにくい)。
- 6) 電子ジャーナルが10年以内に雑誌の6・7割を占めるだろう。
- 7) 図書館は若い研究者に焦点をあてたサービスを考えるべき。などがあります。

そしてインターネットで公開された海外の行政資料を、先生自身が利用された経験から図書館を介さずに研究できる条件が部分的にせよ、出来つつあり、図書館の対応が遅れている点の指摘を非常に重く受けとめました。

【参加者の感想—田北十生 (京都橘女子大学図書館)】

考えさせられたことは、レジメで言えば (1) の図書館員の専門性そして (3) のユーザーからの希望です。一度従来の図書館のイメージを捨てて、考え直す時期に来ているのではないのでしょうか?

そもそも図書館って学習・研究のための資料を収集し、提供する場であったと思うのですが、インターネット時代の図書館のあり方が根本から問われているように思います。図書館自身が自ら変革出来なければ、外部から力づくでかえられるか、見捨てられるかのいずれかの道を歩まなければならないのではないのでしょうか?

そうなったとき、図書館職員はゴミです。自ら変革していくことが今こそ鋭く私達に問われているように思います。皆さんはどのように感じておられるのでしょうか?

大学図書館問題研究会 30周年記念
支部報復刻版（製本）の発刊について
お知らせとお願い

大図研30周年を記念して、京都支部報復刻版を作成し、10月中に会員のみなさんに配布したいと考えています。復刻される支部報は創刊号（No1）～No150号とします。会員のみなさんに欠号補充をお願いしたところ早速ご提供をいただきありがとうございました。しかし、なお下記の支部報が欠号です。お持ちの方がありましたら是非ご提供をお願いします。

「大図研 京都支部報」No欠号（1999/04/15現在）

巻号	発行日	現物様態	現物要否	巻号	発行日	現物様態	現物要否
4	1979/10/15	なし	要	32	1984/06/01	なし	要
7	1980/??/?	なし	要	84	1992/01/01	なし	要
20	1982/05/01	なし	要	102	1993/07/15	なし	要
21	1982/06/25	なし	要	-	-	-	-



第8回大図研京都支部委員会の報告

1999年4月6日（火）同志社大学クローバーハウス（午後7時～9時）

出席：篠原、中嶋、井上、大館 欠席：竹本、呑海、田北

【報告事項】

1. 全国委員会報告

1) 常任および組織全般に関わる事項について

1. 松井委員長の健康状態が悪いため、委員長本人の了解にもとづいて、新たに委員長を選出する準備にかかっている。
2. 日本図書館協会の大学図書館部会で個人選出委員を関西から出すべく検討したが、選出にいたらず、次年度も引き続き藤勝氏が任にあたることになった。
3. 各支部の異動状況について伊藤氏まで報告のこと。

2) 第30回記念大会関係検討事項

1. 開催時期 1999年8月7日（土）～9日（月） 3日間

2. 会 場

- 1) 全体会 8月7日（土）「中央大学駿河台記念館281号室」9:00～17:00
会場経費 22万円（一般）9万4千円（学会等）
- 2) 分科会 8月8日（日）～9日（月）「総評会館」
- 3) 会場で使用する機材 コピー機、電話、録音機材、立て看板
*各会場とも有料コピー機はあるが、借用することを検討中。
- 4) インターネット □□使用環境は整っていない。 *可能性は検討中。

- 5) 大会当日の食事 各自外出して食事をとる。(大会役員、一般会員とも)
- 6) 宿泊
 (1) 大会役員～東京ガーデンパレス 約45名＝予約済み
 (2) 大会参加一般会員
- 7) 懇親会会場 ～ 会場検討中
- 3) 今大会の要点
1. 宿泊の手配は参加者自身で行う。
 2. 会場が大きく2カ所に分かれる。(中央大学駿河台／総評会館)
 3. 第1日目に講演だけでなく、個人の研究発表の場も設ける。
 4. 全国委員会を大会の前日の夕方に開催する。
 5. 会場費は中央大学との折衝次第でもう少し節減できる可能性がある。
 6. 分科会は比較的事務に関連するものとそうでないものに2分し、午前の部と午後の部に振り分けた。
 7. 担当常任に加えて、全国委員が分担して分科会を手伝う体制を確認。
 8. 主題別分科会も例年どおりで、常任に加えて全国委員が適宜補助する形式は特に変わらない。
 9. 記念講演の依頼については、候補として編集者の津野海太郎氏があがっている。
- 4) 編集に関わる事項
1. 論文集に投稿される論文については、査読規定を設けることを前提に案を検討中である。
 2. 論文集については、夏の大会までに発行する予定で取り組んできたが、原稿の集まりが悪く、刊行は遅れる見込みである。
2. 会員情報
- ・現在の支部会員数97名(前回から2名増)
3. 財政情報
- ・1998年度会費納入者 89名(前回から7名増)
 - ・1997年度会費未納者 1名(前回から3名減)
 - ・1996年度会費未納者 1名(前回と同じ)

【審議事項】

1. 研究集会について ・パネラー依頼の件
- ・馬場俊明氏からは応諾を得たが、川崎良孝氏からは応諾を得られなかった。
 - ・立命館大から「アウトソーシング」についての報告を入れることを検討。
 - ・内容的に接点をうまくとりもたせるコーディネーター役の候補者を早急に考える。
 - ・日時 7月 3日(土)
 - ・会場 第一候補：立命館大平和ミュージアム 第二候補：京大会館
- 2. 支部総会について ・日時 7月17日(土)**
- ・次回支部委員会で議案書を討議する。
3. 支部報について 5月号について
4. 次回支部委員会 1999年5月11日(火)

新連載小説 第16回



リ ュ ウ

西田 治

翌日、私はまた、午後休みを取った。昼休みで大方の同僚が昼食に出払った部屋で、帰ろうと机をかたずけていると、向かいの席の矢野陽子が、じっと私を見ているのに気づいた。

「なに？」と僕が思わず言うと、陽子にはっこりして、「あら！今日も何処かへお出かけですか？」と言った。

彼女は入社して3年になるが、今年4月に、私の課に配属になった。明るくて可愛い子だった。ただ、一口多いのが玉に傷だと同僚が話していたが、私も同感だった。

その彼女がニヤニヤしながら横目使いで「怪しいなあ！」と言った。私はドキッとした。

「浮気でもしてるんじゃないの？」

「冗談じゃない！」

「奥さんにつげぐちしようかなあ」

「知りもしないくせして・・・」

「残念でした。私の友達が奥さんの会社にいるのです。しかも同じ課！奥さん、圭子さんっていうんでしょう？」

「余計なお節介だよ！ほっといてくれ！」と私は多少動揺しながら言った。

「私ねえ、前から欲しいなあと思ってるものがあるの。大友さんが買ってくれると嬉しいんだけど・・・」

「・・・」

「駄目かしら・・・」

「・・・」

陽子は昼休みで誰もいなくなった部屋を見渡ししながら、手招きをした。私は思わず身を乗り出してしまった。陽子が手を口に当てて小声で言った。

「もしも買ってくれたら私、一度ぐらい大友さんに付き合っても良いのよ」

私は驚いて、改めて陽子の顔を眺めた。陽子の多少照れたのか顔をほんのり紅くして、私の顔を覗き込んでいた。

「どうお？」と陽子はからみつくように迫った。

私は背筋がゾクッとして、動揺した。陽子とデイトしているところを想像しようとした。ところが何故か陽子ではなく圭子の姿を思い出してしまった。で、私は正気に返ってしまった。

「ケッ！冗談じゃないよ。なに！オフィスラブしようってわけ？」

「シーッ！声が大きいわよ」

「残念ながら、お呼びじゃないよ」

「そう、それは本当に残念ね！か弱い乙女が一大決心して言ってるのに・・・そんな乙女の気持ちがおわかりにならないのね！」とションボリしたように俯いた。

陽子の言葉と態度に何か私が悪いことでもしたような気分になり、陽子が可哀想な気がして、また私は動揺してしまった。

「・・・」

「本当は私、奥さんに告げ口するような人間じゃないことだけはわかって！」

「うん」

「ほんとに？」パッと陽子の顔に明るさがよみがえった。私もつい笑顔になってしまった。

「嬉しい！」

「・・・」

(次号に続く)

【 8 ページからの続き】

何より、他学部図書館（室）が持たないユニークな蔵書が数多くあることである。

例えば、私が総合人間学部図書館が発行している図書館報「バベルの図書館」（間違いではありません）に、紹介記事を書きますと約束しながら一年間も放っておいて鑿鑿を買っている、「ウィリアム・ブレイク書誌」（寿岳文章編）や以前に紹介記事めいたものを書いた辻まことの全集（限定版）も所蔵している。

ブレイク書誌は、寿岳が昭和初期の金融恐慌の頃で、いずれかと言えば物資の供給も不自由だった頃に思い切った贅沢な美装本として京都のグロリア・ソシエテから出版された限定出版の書物であり、今これを所蔵している大学図書館はそう多くはないはずである。

第三高等学校時代の蔵書も残されていて、当時の研究者や学生の子精神生活の一端がうかがえて興味深い。皮の背表紙が劣化してさわると手が赤くなってしまう100年以上前に出版された洋書のなかにたった数冊しかないのだが、図書館員のための実務書があり、当時の図書館員の勉強ぶりも分かる。そういう書庫探索の楽しみも専門が単一でないごった煮風の寄り合い所帯たる総合人間学部の図書館のよさであると密かに考えている。

因みに学内で一番汚い図書館と言われる図書館の内装と什器については、なんとか今年あたりは、概算要求か総長特別経費で学内的にやりくりするかなどの方法で全面的な改装を目論んでいる。ただし、要求通り実現するとなれば数千万円の単位の財源が必要であり、希望が理解されても実現は容易ではなさそうである。もっとも私個人は天井がたかくゆったりとした構造の建物や背後に鬱蒼と茂る樹木に囲まれた環境には、愛着を感じている。

総合人間学部図書館のことはそれくらいにして、私自身の図書館と図書館員および読書についての考え方について、近頃考えていることをすこし書いておきたい。

一つは果たして図書館および図書館思想は進歩したかという根本的な問題である。専門職をめぐる議論ひとつとっても延々と論議は続くけれど、最終的な結論を得ることは無論できていない。結論にはいたらなくても進歩はしているのか。

整理、閲覧、参考調査と図書館機能の三分割は分かりやすいが果たして必要な業務の区分方法であったのか。仮に閲覧と参考業務をひっくるめてパブリック・サービスとし、その他をテクニカル・サービス部門としても同じことである。これは図書館先進国のアメリカでも似たようなものである。図書館業務の入り口が整理業務である図書館員は最後まで整理業務に携わり、サービス業務の本質を理解しないまま図書館員としての生涯を終える。その逆も真であり、不信感を蔵したまま相手が自己の仕事との意味を理解しないと嘆いている。もしそうでなければ、とっくの昔に相互理解など諦めている。

これはすぐれて大規模大学図書館の問題であることが多く、小規模の図書室なら、一人で図書を購入し、整理し、利用者にサービスせざるを得ないから技術的な習熟は深くは望めないとしてもすべての業務を統一的に理解し、実行していると言う面では、トータルな図書館員と言える。これは或る意味で図書館員の理想を体現しているとも言える。

これらの問題点をどう解決すべきかは、残された時間は少ないのだがなんとか煮詰めてみたいと思っている。

もう一つは、まったくの思いつきで自身の怠け癖を考慮すると実現は危ぶまれるのだが、自分が書き散らしてきた図書館と図書館員、それに読書や書評に係わるエッセイをまとめて自費出版して退職するとき友人や先輩諸兄に配ろうという構想である。

これは大図研の30周年に便乗して京都支部報の覆刻を企画しているので、これにさらに便乗してやろうというものだが、実現は正直言っておぼつかない。ただ、これによって人間の思想などというものは、私個人に関する限り対して進歩していないということになると思う。

（しのはらとしお 京都大学総合人間学部図書館）

